

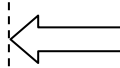
集落の今後のあり方に関する今後の施策の方向性（案）

●歴史的・文化的基盤としての集落

○集落は地域の風土に根ざした我が国の歴史的・文化的基盤

・暮らしの支えあいの基盤 ・地域資源の管理
・歴史・文化の保存 ・自然環境・国土の保全

生産・生活の両面にわたる
共同作業・相互扶助機能



●集落を取り巻く社会構造の変化と集落生活の現状

多くの集落で人口減少・高齢化、末端集落の「周辺地」化



維持・存続が困難な集落の発生の懸念

- ・住民の生活への影響（交通、医療・福祉、買物、生きがいの喪失）
- ・共同産業の困難化（用水路管理、道普請等）
- ・農用地や山林の荒廃
- ・自然災害の発生危険度の増大
- ・地域景観の喪失

●集落の今後のあり方と支援の方向性

○基本的方向性

- ・都市部との新たな互恵関係の構築
 - ・全ての地域住民の地域社会とのつながり（絆・縁）を維持
 - ・行政の継続的な「目」配りを確保
- 改めて、公共的な投資・土地利用のあり方の検討と支援

○具体的な支援の方向

- ・住民の自立的・主体的な活性化活動への支援
- ・生活水準・社会的サービスの維持
（ITを積極的に活用した医療・福祉サービス、ディマンドバス、届けるサービス等）
- ・中心集落等（＝周辺集落の支援拠点）の機能の強化
- ・集落機能の補完・協調体制（既存の集落の範囲を超えた連携等）

○防災上の理由等により住民が自主的な判断により集落の移転を選択した場合

→ 移転後の居住地・生活について入念な支援



①行政による情報の提供と住民との意思疎通、②住民の発意・意向に基づき
暮らしの将来像についての合意形成が必要

●国土保全の観点からの集落管理

集落の無住化・移住により、家屋・宅地・農用地・山林等が管理者不在化



国土保全等の観点から、管理・活用のための一定の工夫・仕組みの構築の検討が必要